

第16回森吉山麓高原自然再生協議会議事録概要

【協議事項1】自然環境学習プログラムについて

事務局	(資料により説明)
村田委員	県の予算は資料に載っているが、協議会としての予算はあるか。
事務局	再生協議会としての予算はない。
村田委員	野生鳥獣センター運営協議会の予算などで進めるということとなるか。
事務局	1回目と4回目はそちらの費用で手配頂く予定。それ以外の活動については、県予算で対応していきたい。
村田委員	環境学習にも予算がかかるので、確保いただきたい。 4回のおおよその日程を決めてもらえれば調整しやすい。
蒔田会長	ここで大まかな方向性を決めてもらい、日程も早めに決めた方がいい。
村田委員	落ち葉については、堆肥にする前に子供達に遊ばせてみたい。自然再生事業だけでなく、現地に来た子供達に遊んでもらって、秋が遅くなつてから堆肥にすることも考えてもらいたい。苗畑の区画が沢山あるので、そのひとつをそうした落ち葉用にするなども検討するなど、場の提供としても考えて頂きたい。
星崎委員	野鳥観察の日程はどうなっているのか。
事務局	日帰りとなる。
星崎委員	野鳥観察は午前中の早い時間でないと見られないのではないかと。
足利アクティブレジャー	時間については、できるだけ早めにと打合せしているが、講師の都合もあって8時半集合よりは早く来られないと言われている。8時半でも遅くはないと感じているので、お昼までという計画で進めている。理想はおっしゃるとおりだが、現実的に難しいところ。
沼田委員	平成20年度から秋田県水と緑の森づくり税が始まっているが、県民の皆様からの意見も踏まえて今年度に来年度からの制度見直しを行っている。例えば森林環境教育の中に木育を入れたりして、充実を図っている。森林ボランティアの支援も拡充しているので、そうした予算もうまく活用していただきたい。 行政だけで進めて行くとどうしても行き詰まりとなるため、秋田県森づくりボランティアサポートセンターをプラザクリプトンに設置する予定。その中で、手続き的な部分のサポートの他、そこで森林環境教育のパターン化したメニューを学校側で選択できるような形で提供したり、講師派遣を斡旋したりする。そのパターン化する中で、先ほどの環境学習プログラムも入れ込んでいけば、沢山参加してもらえるのではないかと。

蒔田会長	そのサポートセンターには、職員が常駐するのか。
沼田委員	土日も含めて常駐する。各団体が行う各種申請手続きの指導も含めて4月1日から設置する予定としている。
佐々木委員	場所はクリプトンだけになるのか。森吉に行って活動するという事にはならないのか。
沼田委員	クリプトンの中でできるものは出来るが、各地域で活動をしたいという方には紹介することとなる。イベントなどの情報を集約して照会していくものとなる。
佐々木委員	今回の4つの活動は現地での活動となる。サポートセンターに照会されても、交通手段の問題や人の配置は付随しない。
沼田委員	いろんなイベント情報を集約して提供するものであるが、実際の人集めなどは各ボランティア団体に行ってもらふこととなる。その際には必要経費等については森づくり税を活用してもらいたいということで検討しているところ。
佐々木委員	税事業も手続きがあって使いにくい。センターで照会されても、いろいろと経費がかかるものであり、実際にやるとなった場合はコーディネイトする人が必要となる。でないと、集められない。
沼田委員	県でも森林祭をやっており、各振興局からバスを出して参加者の管理まできちんと行っている。税事業ではボランティアへの報酬は対象とならないが、新たに国の事業で里山などの手入れに対して定額の交付金が交付される仕組みが創設されおり、ボランティアへの支援にもなるので関連して説明する。 (資料により説明)
蒔田会長	再生には資金が必要であり、環境税等を使うなり、今説明頂いたのは農地の整理が終わってからになるが、可能性としてこうした手段もあるということになる。 実際にこれからの活動を考える時に、4つの計画が出ているが今年の補助金には間に合わない。パターン化して進めて行くとした場合は、来年度に向けては、一番大きいのは交通手段だと思われる。 他でやられているイベントでも秋田市からバスを出すと人がすごく集まりやすい。現地集合だと限られてくるという傾向がある。 その点、今年どうするのか、そして来年度以降どうするのかという2段階でやっていかないといけない。
沼田委員	先ほど説明したものは6月から着手可能で、現在地域振興局に相談、申込みしていただければ3月末までにある程度希望があったものは対象にしていけるものと思われるので、検討頂きたい。

事務局	対象となるような条件整備については、北秋田市と調整しながら進めて行きたい。
西村委員	森吉は一般の人がなかなか行きにくい場所。野生鳥獣センターでもプログラムをやっているが、人が集まりにくい場所でイベントをやることを想定しなければならない。来年4回やるとなっているが、ターゲットをどうするのかで、森林の自然再生事業を担っていける人を集めるのか、森吉を知ってもらうための入り口部分としてやっていくのか。それによって、人の集め方や広報の仕方が違ってくる。まずは、ターゲットをどこにおいて、どういう狙いでイベントを4回開くのか事務局の考えを知りたい。
事務局	ターゲットを明確にというところは絞り切れていないが、単発で植樹活動などを行ってきているが、単発で終わっているので毎年一定の時期に活動するという形づくりが必要と考えている。
西村委員	そのときの参加者はどこから来ているか。年齢層はどうか。
事務局	一般公募で現地に関心のある方などで、年齢層は特に問わずに募集している。
星崎委員	実際に来ている年齢層はどんな感じなのか。
事務局	観察会には、子供からお年寄りまで幅広く参加頂いている。県で行った植樹イベントも幅広く参加頂いている。
西村委員	先ほどの落ち葉遊びなんかはファミリー向けで、自然に親しむ中で再生の作業も一緒にやるという狙いがあると思われる。作業として人を集める形にするのか、親しみの中で再生作業に結びつけていくかの戦略が重要。これまでの植樹活動をやってきた時の名簿がすごく重要になる。鳥獣センターはあるはずでなかったか。
足利アクティブレジャー	名簿はその都度作成するが、併せてこちらからの発信する情報を受けたいという要望を受けてメール会員をつくり、情報提供している。現在、50組ぐらいいる。
西村委員	そうした蓄積の中で徐々に再生の作業的なものとしてくとか、戦略を持った方がよい。来年度4回やってその蓄積からつなげていくことでもいいだろうし、来年度はファミリーを対象に森吉に来てもらうことを重視するのであれば、もっと楽しみのある内容を重要視した方がよい。
蒔田会長	4回の中身で一般向けの遊びの要素が強いものと、植栽～保育とつながった回と、その中での区分けを作ればよい。この4回の中だと秋1が一番遊び要素が強く、2は一度来てもらった人を引っ張り込むための意識付けというイベントに感じる。そのあたりは明確にした方がよい。
事務局	これまで来られた方の名簿は整備してあるのか。 集約していないが、それぞれに参加して頂いた方の情報はあるかもしれな

い。

村田委員 将来的には、イベントとしての継続も必要だが、現地の住民が地元の山を守るという意識があるだろうから、そうした人達の参画も必要ではないか。保育の草刈りも7月と9月の2回はやらないとススキに埋もれてしまう。例えば、対象を場所毎に変えて広報とかをしてもよいのでは。

蒔田会長 場所というのは、どこへ広報するかということか。

村田委員 そのとおり。北秋田市なら北秋田市、子供なら秋田市の子供を連れていこうとか。実際に要望としては秋田市内の親子が自然遊びをしたいという意向が強い。バスとかで交通手段を確保すると、すぐに集まる。北秋田市は見えているだけに集まりにくい。

蒔田会長 老人クラブなどは、時間はあるけど県がやっているからと傍観しているので、うまく引き込めばやってくれるような気がする。

村田委員 そうするにはどこに当たりをつければよいのか。

村田委員 例えば、県で植樹する時に老人クラブ等の窓口を協力を依頼するなどが考えられる。頼まれるとやってくれるのではないだろうか。

工藤委員(三浦代理) ターゲットの話だが、春と秋は環境省野生鳥獣センターの観察会とタイアップするようだが、一般公募でやってきているので、今のこの協議会の事業は主旨が異なるのではないか。どこが主体になるのか。

蒔田会長 春と秋については、野生鳥獣センターの観察会に相乗りさせてもらう形となるが、夏と秋の1回目でどう特徴を出しながら、何ができるかというところになる。

蒔田会長 全て県だけが行うというのは難しいので、同じ場所でやるのであればそれぞれの主体者の意向に則って、こちらとしてプラスアルファができればよい。実際、協議会主体では動いていないので、定例化を進めて年4回森吉でというパターンをつくりたいのが事務局の主旨になる。

高橋委員 森づくりにも地域性があるので、地元の森づくり推進課にも再生事業の普及に力を入れてもらいたい。また、大館に少年自然の家があるのでそうした地域の利用者にも周知してもらいたい。

蒔田会長 今までの議論を総括すると、

- ・各回のイベントの主旨をはっきりさせること
- ・それに応じて広報の仕方を検討が必要
- ・参加者の交通手段の検討

ということに集約される。それに伴う予算確保も必要となる。

蒔田会長 また、これらについて再生協議会が共催するという、全体的な方向性についてはいかがか。

(一同) (異論なし)

蒔田会長	進めながら、様子を見て検討していくということになるかと思うが、平成25年度についてはこの4回、特に2回目と3回目を中心にどのような内容にするか詰めて行くということなるが、具体的な内容とか日程について補足はあるか。
事務局	日程については、3月末ぐらいにおおよそを決めていきたいが、2回目は7月、3回目は9月ということになると思われる。 いずれにしても、指摘頂いた狙い、対象を明確にして特色を出して、委員の皆様の意見を頂きながら進めていきたい。
蒔田会長	9月だと落ち葉はどうか。
村田委員	9月下旬になれば落ち始める。少し早いかもしれない。 種も落ち始めるので、採種ネット張りは9月にはやった方がいい。
星崎委員	ネット張りだけだと魅力がないので、拾った実の利用なども必要ではないか。
村田委員	トチだとブナと違うので、もう少し早い時期になる。9月下旬だとトチはない。
蒔田会長	具体的な中身については、事務局中心に詰めて頂くこととします。
星崎委員	広報はどのように広げていくことで考えているのか。
事務局	県のホームページの他、県政記者クラブへの投げ込みや市の広報等で行っていく予定。
星崎委員	こうしたものへの人集めはロコミの力が大きいので、具体的に顔の見えるところで周知していく必要がある。例えば9月の森の市などでブースを出すなどして、そこに来た人にチラシを配るだけでも反応が分かる。興味を持つきっかけになるし、多くの人目に付くような場でアピールする場を検討したほうがいい。
足利アクティブ ゾジャー	大勢というわけではないが、森吉山野生鳥獣センターにも再生事業を紹介するパネルがあり、そこにチラシを配布するスペースは用意してあるので活用して頂きたい。
星崎委員	そこはすでに関心のある人が対象となるので、新たに輪を広げることにはつながりにくい。
足利アクティブ ゾジャー	野生鳥獣センター運営協議会には自然保護課も入っているので、観察会に来たことがある方々へPRするとかも可能なので、積極的に活用頂きたい。
蒔田会長	早く日程を固めて、チラシを作るということがまず必要。
和田委員	下刈りの関係だが、ノロ川牧場跡は見事なススキが育つので、茅葺き屋根の資材として無償提供できるといったような情報の出し方なども検討してみてもよい。今年は見事なススキが育っていた。
蒔田会長	課題は多く、重要な指摘があったが、日程は早めに決めてもらい、協議会

からも多く参加出来るようにお願いしたい。

【協議事項2】企業の森制度について

事務局	(資料により説明)
村田委員	企業の森の実施にあたり、農地の規制がかかっているがどうなるのか。
事務局	県の事業の一環として行うため、問題ないという整理をしている。
星崎委員	PRするリーフレットに使ういい写真がないという説明だったが、4回予定しているイベントにプロの写真家、もしくは写真撮影係を配置して、写真を沢山撮ればいいのか。プロだと費用がかかるが、やはりいいタイミングで写真を撮ってくれるので、そうした写真を利用してリーフレットを作成できるので、検討してみてはどうか。
蒔田委員	写真については、記録としてもっと撮っておいた方がいい。植栽地は毎年いっていると気づかないが、5年空けて行くと変わったなと感じることもある。それを写真でやってもらうことは必要。
村田委員	企業にこうしたものを送付することまでは考えていないのか。
西村委員	他の地区でもやっているようだが、状況はどれだけあるのか。
沼田委員	マックスバリューとトラック協会の実績があり、鹿角と由利本荘市で行っている。
西村委員	その企業がどうしてその場所を選定したのか分かれば、森吉に引き込む検討材料となる。リーフを見ると宿泊などの情報も多いので、そうしたところなのか、企業としての活動なのか、情報があれば検討材料となりうる。
沼田委員	2社ともかなり前で、最近の活用事例がないので、理由については追って調べて事務局を通して回答したい。
星崎委員	国有林との情報交換はしているのか。
沼田委員	国有林はかなり進んでいる。国土緑化推進機構や国有林が働きかけをしながら国有林を売り込みしているので、県の方では対応可能となれば県内企業になる状況はある。もう少し県内の大きな企業にアピールできるのは難しいので、検討が必要。
蒔田会長 (一同)	事務局の方向性についてはいかがか。 (異論なし)
蒔田会長	では、この方向で進めてください。

【協議事項3】平成25年度事業について

事務局	(資料により説明)
星崎委員	繰越分について、変更点はあるか。
事務局	変更点はない。

蒔田会長 平成25年度事業の国庫交付金が変わる点について、従前の交付金とはどう違うか。

事務局 新たな制度はまだ途上であるが、申請先がいずれも環境省であることから特段大きな違いはないと感じている。

西村委員 一括交付金だと県の中での調整で、各省庁の交付金になると全国での調整となる点異なる。予算全体としては絞り込まれている現状。交付金については善処してもらいたいとは伝えていた。

阿部委員 再生事業とは別になるが、今年度給水施設を直しているの、キャンプ場含めた施設に飲料水の提供が再開出来るようになったので、御利用頂きたい。

また、4回のイベントについて意見を頂いたが、リピーターを増やしていくアイデアを頂いたので、予算についても確保していきたい。宣伝は必要なので、県政記者クラブもうまく活用しながら再生事業をPRしていきたいと考えている。

また、森吉山とは違うが、白神山地世界遺産が登録20周年ということで、そちらでも自然保護課でイベントを予定しているので、皆様の応援をよろしくお願ひしたい。

星崎委員 写真については、使いたい意図があれば、一般の愛好家を含めて写真コンテストを開催していい写真を集めるということも検討してみてもいいのではないか。

事務局 検討していきたい。

(以上)